

## 豪ドル、RBA 声明文に注目

- ◆豪ドル、1-3 月期 CPI は弱く RBA 声明文に要注目
- ◆ウイグル綿花輸入禁止法案提出で豪中関係悪化なら豪ドルの重しに
- ◆ZAR、公務員賃金交渉とムーディーズ格付け見直しに注目

### 予想レンジ

豪ドル円 82.00-87.00 円

南ア・ランド円 7.40-7.80 円

### 5 月 3 日週の展望

豪ドルは神経質な値動きになりそうだ。今週発表された 1-3 月期消費者物価指数 (CPI) は前期比で+0.6% (予想+0.9%)、前年比で+1.1% (予想+1.4%) となり、市場予想を大きく下回る結果となった。1-3 月期の経済指標がこれまで比較的好調だったこともあり、市場では予想を下回ったことを落胆する声が多かった。この状況下で来週 4 日には豪準備銀行 (RBA) の理事会が開かれることから、RBA の姿勢を改めて確かめる必要があるようだ。隣国ニュージーランドの中銀であるニュージーランド準備銀行 (RBNZ) は、「経済は夏季 (南半球なので 1-3 月は夏季にあたる) の数カ月に渡って減速した」と発表した。概ね一時的な影響という評価だった。RBA も同様に一過性のものとみなすのか、もしくは他の見解を示すのかが注目される。なお、市場では企業活動は強まり雇用は回復しているが、賃金の上昇が緩やかなことと、今回の CPI の伸びが低かったことで政策金利を 2024 年頃まで現行水準で維持するという予測が広まっている。

RBA 理事会以外には 4 日の 3 月貿易収支、5 日の同月住宅建設許可、6 日のデベル RBA 副総裁講演、7 日の RBA 理事会議事要旨などが注目される。

国外要因では引き続き豪中関係に目を配りたい。今週 27 日に豪上院で、中国の新疆ウイグル自治区産の棉花の輸入を禁止する法案が提出された。豪中関係の更なる悪化が今後の懸念材料になる可能性がある。

南アフリカ・ランド (ZAR) は堅調推移か。今週に入り再び ZAR は年初来高値を更新している。来週も堅調になると思われるが、リスクは複数ある。一つ目は、先週から始まった南ア政府と公務員の労働組合の賃金交渉の進展だ。政府は昨年引き続き賃上げを行わないように交渉しているが、南アではインフレ率が徐々に高まっている中で、2 年連続の賃上げゼロでは労働組合は納得せずストライキの可能性を示唆している。本格的にストライキに入った場合、ZAR は売られる可能性が高い。

2 つ目が、7 日に格付け会社ムーディーズが南ア債の格付け見直しを発表することだ。昨年の南ア財政は若干ながら改善したことで格下げリスクは少ないが、警戒しておきたい。来週は ZAR 相場を動かすような経済指標の発表は予定されていない。

### 4 月 26 日週の回顧

豪ドルは底堅い値動き。大型連休を前にドル円の買い戻しが入ったことで、豪ドル円は堅調に推移した。その一方で対ドルでは、1-3 月期の CPI が市場予想よりも弱かったことで、一時弱含む場面もあったが、下げ幅は限定的となった。

ZAR は対ドル・対円ともに年初来高値を更新した。週初は小幅な値動きだったが、週後半は南ア株の上昇などを支えに堅調に推移した。なお、3 月生産者物価指数 (PPI) は前年比で+5.2% となり、市場予想の+4.7% を上回る結果となった。(了)